

大阪・関西万博 対話プログラムにて災害大国日本の経験と未来への提言を発信しました (2025/5/20)

テーマ：「自助」「共助」「公助」VR 避難シミュレーション、MR による浸水予測の可視化
会 場：大阪市此花区・万博会場 テーマウィークスタジオ
URL：<https://www.forum8.co.jp/forum8/expo/proposal.html>

2025 年 5 月 20 日（火）、大阪・関西万博会場内で開催された株式会社フォーラムエイト主催の対話プログラム「あなたの安全安心な未来に向けた災害大国である日本だからこそ世界への提言」に当研究所の今村文彦教授（津波工学研究分野／東北大学副学長（社会連携・校友会・基金担当））が登壇しました。本プログラムは、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を踏まえ、安全安心な社会の実現に向けた議論を行うものです。

プログラムでは、同社の代表取締役社長の伊藤裕二氏、大阪大学の福田知弘教授、タレントのパトリック・ハーラン氏（司会）と共に、活発な議論が交わされました。

今回の議論の中心となったのは、災害時における「自助」「共助」「公助」の連携と、地域コミュニティの役割です。東日本大震災の教訓から、平時からの顔の見える関係づくりや避難訓練への参加が、災害時の助け合いに繋がるとの認識が共有されました。また、避難行動要支援者への配慮や、マンション等集合住宅における防災対策の重要性も指摘されました。

災害時の情報リテラシーについても活発な意見交換がなされ、誤情報やフェイクニュースに惑わされず、信頼できる情報源を複数確認し冷静に判断することの必要性が強調されました。

防災分野における DX（デジタル・トランスフォーメーション）の活用に関しては、シミュレーション技術がリスクの可視化や防災意識向上、政策決定に貢献する可能性が示されました。一方で、ハード対策の限界も認識し、地球温暖化などの新たなリスクも踏まえた継続的なインフラ整備と、それを補完する自助・共助の取り組みの重要性が確認されました。災害時の電源確保についても言及がありました。

本対話プログラムは、災害科学の知見や日本の経験を国内外に発信する貴重な機会となり、当研究所としても、安全安心な社会の実現に向けた貢献の意義を再認識しました。

（当日の様子は youtube で見る事が出来ます：<https://www.youtube.com/watch?v=DozkKoyhVhl>）

議 津波避難対策検討ワーキンググループ報告（平）



津波避難対策について説明する今村教授



登壇者一同